

週刊新社会

8月13日



2019年号外
野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600円 1部 164円 1部 150円 41円
http://www.sinsyakai.or.jp/
発行所：新社会党 E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F Tel. 03-6380-9960 Fax. 03-6380-9963

反韓同調圧力は民主主義の危機を増幅させる

ソウル市が高校まで給食無料化へ 韓国で加速する学校給食無料化と有機食材

ソウル市が市内小中高校の給食を無料化し、有機食材を使うと昨年10月にパク・ウォンスン市長が発表した。今年度からは準備の整った区で高校生（3年生）の給食無料化がモデル導入されている。

パク・ウォンスン市長は初当選時に給食の無料化推進を掲げた。現在市内の国立や私立の小学校と国際中学校が無料化されていないが、今回から対象となる。

また、高校について現在低所得世帯（中位所得の60%未満）などの生徒が給食支援を受けているが、無料化となれば友人の目を気にせず給食を楽しめる。

韓国では2010年頃から給食無

料化を掲げて当選する自治体議員が増え、現在韓国内の小学生の94%、中学生は70%が給食無料となっている。

しかも食材は有機農産物が中心となる。韓国ではこれまでも親環境農業育成法によって有機農業が推進されていたが、たとえば高校では現在30%の有機食材割合だが、これを有機学校給食水準の70%まで引きあげる。

韓米自由貿易協定で犠牲になっている畜産業や果樹などの農家にとっても朗報だ。当然コスト（30%増）はかかるが、その負担を惜しまないソウル市政と日本の自治体行政との乖離は大きいといえる。

先進的に取り組んでいることは間違いない。

野田市の取り組み

野田市も減農薬・減化学肥料の特別栽培米を前市長時代から学校給食に採用し、その購入費用を市が全額負担している。

野菜も地元農家が生産したものを学校給食に取り入れている。

また、市内に酪農産物があり、牛糞ミミガラ堆肥や剪定枝葉堆肥をつくり、有機農業を進めている。

野田市の場合は不幸にもコウノトリ事業が注目され、こうした学校給食の取り組みの影は薄い

学校給食に有機食材の今治市

国内でこのような取り組みを先進的に行っているのはタオル生産で有名な愛媛県今治市。

学校給食を通じて地域の有機農業を育て、地産地消と学校給食とを一体化させた取り組みを30年以上も推進してきた。

今治市は地元産の農産物を給食用食材として利用し、有機野菜の割合も年々高めている。パンや大豆も給食への供給を契機に国産小麦や大豆の生産を始め、今ではその加工品が一般に販売されるなどマーケットを形成するまでになっているという。

いすみ市も有機給食米採用

最近では県内のいすみ市の取り組みが脚光を浴びている。「自然と共生する里づくり」を市の方針として掲げ、2013年から有機米の栽培に力を入れる。2017年11月からは市内の小中学校の給食米の全量を地元産の有機米でまかなう。

災害に備え市がストーマ装具を預かり保管

時間がかかったがストーマ（人工肛門、人工膀胱）の災害時対応として野田市が預かる制度を始めた。

これは病气手術のためにストーマをつけることになった市民が、災害時の対応として市も預かり保管してほしいと、数年前から松戸市の事例を参考に要望してい

たもの。

当初は消極的だった担当課だったが、8月15日の市報に「災害時に備えてストーマ装具を保管」の見出しで、保管希望者から10日分のストーマ装具とその交換に必要な備品を預かることが掲載された。問い合わせは障がい者支援課まで。